

よんでネット*

春号

発行口茅ヶ崎市立図書館／協力口茅ヶ崎図書館子どもの本の会

「大人になって おもしろい?」

清水真砂子 著



岩波ジュニア新書
【153】

明るく前向き。協調性がある。それが良しと教わってきた。でも、この価値感誰のためのもの?

この本は、青春期を迎え、大人へと成長していく皆さんへのメッセージ。

「怒れ!」「生意気であれ」「ひとりでいなくていいんだよ」—。悩みも弱みもひっくりめ、丸ごとの自分を受け入れることから大人への一歩が始まります。

「きぼう ころひらくとき」

ローレン・トンプソン作 千葉茂樹 訳

きぼう

それは、だれかにたいせつにされていると知ること。

じぶんにも たいせつなひとがいると知ること。

希望はいつも、すぐそばにある。

日常のささやかなことにも、あなたの心のなかにも。

そして芽をふく時を静かにまっている。

何度も開きたくなる写真絵本です。



(まるふ出版
【E・絵本のコーナー】)

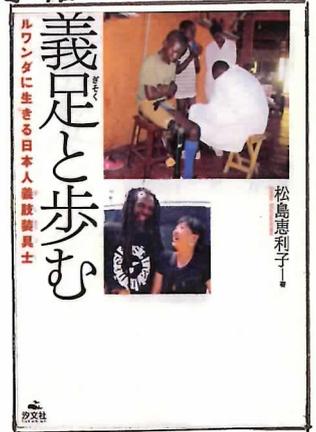
「義足と歩む ルワンダに生きる日本人義肢装具士」

松島 恵利子 著

1994年のルワンダ大虐殺で、多くのルワンダ人は手や足を奪われました。茅ヶ崎出身の義肢装具士ルダシングワ 真美さんは、ルワンダ人の夫 ガテラさんとともに、20年以上ルワンダの人々に義足を届ける活動をしています。

“自分の足で立ち上がって、自分の人生を自分の力で作っていききたい”

真美さんたちの活動は、ルワンダの人々の未来を支えているのです。



汐文社
[916マ]

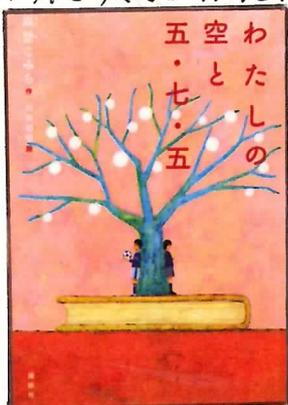
「わたしの空と五・七・五」

森楚 こみち 作 山田和男 絵

”しゃべりは苦手で、ペンをもつたら本音もぶちまけられる者よ！文芸部に入るべし”

中学校に入ったばかりの空良は、あやしいチラシにひかれ、文芸部に入部した。見よう見まねで俳句を作るようになった空良。吟行のために校内を歩いていると、同じクラスでちょっと気になる颯太が、部活の先輩とトラブルになっているのを見逃さない。

* 吟行 → 外を歩きながら、句を作ること。



講談社 [913モ]

「月の光を飲んだ少女」

ケリー・バーンヒル 佐藤見果夢 訳

その町では、毎年赤ん坊を生贖に捧げなければならなかった。でも、その赤ん坊たちは善良な魔女ザンに助けられ、離れた町で幸せに暮らしていた。ある年、ザンは助けた赤ん坊のかわいらしさに見とれ、うっかり月の光を飲ませてしまう。そのため、ルナと名付けられた赤ん坊は、魔法の力を持ってしまう。それに気付いたザンは、その力をおさえようとするが、13才になったルナは…。



評論社 [939パ]